

第 17 回GX実行会議

三菱ケミカルグループ株式会社
取締役 代表執行役社長 筑本 学

1. エネルギー・資源の需給強靱化と GX は、わが国産業の競争力強化の根幹

エネルギー・資源の需給強靱化とGXを進めることは、厳しい国際競争の中で、わが国の成長戦略を支える強靱なサプライチェーンを国内に構築し産業競争力を強化することとほぼ同義。これらを一体として取り組むことが重要。

（化学産業のケース）

- ・化学産業は、医薬品、住宅、インフラといった我が国の人命・生活・社会基盤を支えるとともに、自動車や半導体といったわが国の主要な産業の産業競争力に資する高機能化学品を供給する重責を担う。（今回危機の教訓）
- ・一方で、化学産業は、その原料を中東ナフサに大きく依存する構造、かつ、一部経済性を無視した圧倒的な設備規模の競合国との厳しい国際競争に直面。
- ・日本の産業競争力及び経済安全保障を強化するためには、サプライチェーンの強靱化を図る必要（＝需給強靱化とGX）。
 - ✓エネルギー・資源（特にナフサ）の安定的調達・リスク低減
 - ✓化石原料（ナフサ）からの原料転換（リサイクル・バイオなど）及び多角化
 - ※国産の地域循環資源として、経済安全保障及び地域経済活性化に寄与
 - ※GHG 削減（CN）と資源循環（CE）双方の意義
- ・これらを実現するために、収益力・競争力を確保しながら、成長・変革への大規模な投資を可能とするような構造改革・再編を抜本的に進めていく必要。

2. 需給強靱化対策及び GX 政策の推進に向けて

(1) 需給強靱化対策における国内のサプライチェーン維持・強化

・需給強靱化のための施策(備蓄・調達多角化等)により、国内サプライチェーンの上流産業のコストが上昇した場合、川中川下製品の輸入が増大し、国内の供給基盤が棄損し、サプライチェーンがかえって脆弱化するおそれ。

・このような事態を招かないような制度設計、特に費用負担の在り方を検討するとともに、国内での供給基盤維持・強化のための方策が必要。

(2) 市場創造・需要創出

・GX ケミカル等の GX 製品の普及のためには、需給強靱化・GX によるコスト増を緩和する支援(RD/設備投資等)に加え、需要側である消費者の行動変容を促し、市場を創出する仕組みが必要。

・GX 製品について、税制上の格差、利用を後押しする規制制度、GX 製品であることの認知向上や価値の見える化、といった仕組みの更なる検討を進めることが必要。

(3) 構造改革・再編

・経済安保の観点からも、需給強靱化・GX を進めると同時に、産業自体が強くなり、成長・変革投資を継続的に行えるよう、国として国内産業の構造改革・再編を後押しするような政策が重要。

(4) 地域経済の発展、地域サプライチェーン連携

・自動車や半導体といった戦略的産業と、これらを支える製造業サプライチェーン、そしてエネルギー供給基盤を一体的に捉えて、地域で連携していくことが重要。

・コンビナートは、インフラ・技術・人材の集積を有しており、既存産業の変革を踏まえた跡地やインフラの活用を促進するための方策(規制緩和等)や、データセンタなどを支える産業(素材など)との連携を進めることが重要。

・地域資源循環の観点からは、例えば、リサイクルのための廃棄物収集の仕組みの構築、地域バイオ材の活用(燃料・素材)のための支援が重要。

(以上)